

若者向け自殺対策事業

＝子供・若者向けイベント「スマイルデーなごや」＝

(実施期間) 平成 25 年度～

(基金事業メニュー)

対面型相談支援事業

(実施経費) 平成 26 年度 10,066 千円

(実施主体)

(10,066 千円)

愛知県名古屋市

【事業の背景・必要性】

近年、若年層の死因の 1 位が自殺であるなど、若年層における自殺の問題は深刻さを増している。このため、本市においても若年層を対象とした自殺対策の充実は重要な課題となっている。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

名古屋市における自殺者数は、平成 10 年の急増以降、400 人～500 人程度で推移しており、近年は増減を繰り返しながらも全体的には減少傾向にある。

しかし、若年層については、死因の第 1 位が自殺であるなど深刻な状況にある。

【事業目標 事業内容】

悩みを抱えた際の援助希求行動を促し、子供・若者が各相談窓口への理解を深めることで、子供・若者の自殺予防に繋げることを目的とした子供・若者向けイベント「スマイルデーなごや」を開催した。

イベントでは、広く子供や若者に対し、生活上の困難やストレスに直面し悩みを抱えた際の援助希求行動を促すため、「悩みを抱えたときには、周囲に援助を求めよう」というメッセージを発信した。また、子供・若者を対象とした各種相談機関の参加により、周りにはたくさんの相談機関があるということを知ってもらう機会とした。

また、イベントに先立ち「悩んだときに救われたひとこと」などをテーマとしたマンガコンテスト「スマイル! マンガコンテスト」を開催し、市立中学校への作品募集を兼ねた啓発や優秀作品を使った地下鉄車内広告の掲出など 1 日のイベントに留まらず長期にわたる啓発を行い、メッセージを発信した。

【事業実施にあたっての運営体制】

イベント及びマンガコンテストの開催については、企画運営を企画コンペにより選定した業者へ委託した。また、関係各課及び各相談機関との連絡・調整については、障害企画課が行った。

【事業の工夫点】

会場について、初年度の平成 25 年度はクローズドの会場（市公会堂）とし、併せて 1 日相談会を開催したが、より効果的に多くの子供・若者への啓発を行うため、26 年度は繁華街にあり子供・若者が多く集まるオープンな会場（オアシス 21）を使用した。

平成 25 年度は、その場で様々な分野の悩みを一度に相談できる相談会を実施したものの、子供・若者にとってハードルが高かったのか相談件数が少なかったため、26 年度は各相談機関を知ってもらうことに内容をシフトさせた。

6 社会的な取組で自殺を防ぐ⑨

なお、各相談機関を知ってもらう仕掛けとしてクイズラリーを企画し、来場した子供・若者に各相談機関を理解してもらえよう、各相談機関がクイズ問題を考えた。また、各相談機関を周知するブースでは、クイズラリーの参加者に問題のヒントを伝える中で相談機関について説明したり、キャラクターの着ぐるみと触れ合う場とするなど、各機関が参加者と触れ合いながら理解を深めてもらう工夫を凝らした。

また、ステージでは、アテレコや効果音による演出により受賞候補作品の紹介を行い、著名人による審査と来場者による一般投票を行うマンガコンテストの最終選考会および表彰を行った。他に著名人が自らがいじめられた経験を語りや悩みを抱えたときには相談していいんだというメッセージを伝えるトークショーを行った。加えて、合間に各相談機関のPRタイムを設け、ステージ上でも各相談機関の周知を行った。

【事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

イベントと併せてマンガコンテストを開催することで、作品募集を通じて、教育委員会と連携した中学生への啓発をはじめ、イベント当日の参加者に留まらず広く若者への啓発を行うことが出来た。

また、イベントへの参加準備を進める中で、関係各課及び各相談機関（15 機関）との間で連携強化が図られた。

参加した各相談機関への実施後のアンケートでは、イベント来場者へ直接相談機関の案内をすることが出来たこと及び各相談機関同士顔の見える関係づくりや情報共有ができたことが大変好評だった。

【会場の風景】



【マンガ作品】

平成 25 年度最優秀作品賞



コママンガの部



ストーリーマンガの部

(問合せ先) 名古屋市障害企画課

TEL: 052-972-2283

E-mail: a2633@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp

URL :